

外部評価結果総括表

事業所名	せんねん村ゾループホーム吉良荘
評価確定日	2007年2月28日
評価機関名	特定非営利活動法人HEART TO HEART

I 運営理念

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
運営理念・運営理念の啓発	3	3	0	0
特記事項	<p>法人全体の理念「こころのびのび、からだいきいき、いのちきらきら」のもと「村人さんの個性を大切にします」「遊びをいっしょにやりいれます」「自立のお手伝い」「瞬間を大切にします」を方針にしている。職員一人ひとりが、自分の言葉で、仕事をしていく上で大切にしていることを語ることができる。開設から3年目を迎え、入居者の入れ替わりも少なく、職員の定着率も良く、落ち着いた運営の姿が感じられた。</p>			

II 生活空間づくり

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
家庭的な生活環境づくり	4	4	0	0
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6	6	0	0
特記事項	<p>民宿や会社の保養所が点在する地域の海に面した保養所を転用したホームであるが、周囲の民宿と同様シーズンオフなどは、人気もなく、営業をしているかどうか分からないほどひっそりとしている。下の道路から住民の視点で、建物を眺め、吉良荘らしいアール方法を工夫して欲しい。玄関と居住スペースの階とは、エレベーターでの移動である。玄関から通路まで長い急な勾配の坂で、手がかかりとなるものがなく、高齢者には下りに危険を感じ、居住階は、バリアフリーにしている。共用空間として唯一の食堂兼リビングがあるが、2つの食卓とソファコーナー一杯となるあまり広くない空間である。「もう一つくつろげる空間が欲しい」という自己評価があり、使っていない部屋などを検討している。全ての居室の正面に海が広がり、日の出や日の入りが見られる景観の良さが特長である。</p>			

III ケアサービス

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
ケアマネジメント	7	7	0	0
ホーム内でのくらしの支援	9	9	0	0
介護の基本的な実行	7	7	0	0
日常生活行為の支援	9	9	0	0
生活支援・ホーム内生活拡充支援	2	2	0	0
医療・健康支援	7	7	0	0
特記事項	<p>「センター方式」を母体法人せんねん村で改良してアセスメントシートにしている。生活面での「できることできないこと」これまでの「趣味やなじみのこと好きなこと苦手なこと」「生活史」「体の情報シート」「心の情報シート」を手がかりに、アセスメントしている。計画作成担当者は、介護職員は、共に生活をしているので、入居者の少しの変化に気づきはすこしと評価し、疑問点や分からないことを介護職員に聞き共につくることを大切にしている。介護記録表は、3列にわけ、左欄にはケアプランを記述し、2列目は日中の様子、3列目は、夜間の様子を記入できる様式である。記録をするときにケアプランを必ず見ることができるようになっていることが特長である。月に一回ミーティングを行い意見交換をしている。ミーティングでは司会、書記を全員が担当する工夫をしている。個別ケアを基本に、入浴も毎日でき時間帯も自由でその人のペースで暮らす生活支援を行っている。法人全体で「身体拘束」や「行動の制限」をしない方針を明確にしておりこのホームも取り組んでいる。その人らしい生活支援を目指しているが、入居者の重度化してくる中で身体介護に比重が移っていくもかしきがある。</p>			

IV 運営体制

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
内部の運営体制	11	10	1	0
情報・相談・苦情	2	2	0	0
ホームと家族との交流	3	3	0	0
ホームと地域との交流	5	5	0	0
特記事項	<p>法人内の意見交換は、日常的にはパソコンメールで行うことができ、月に1回各部署の代表者会議があり、法人全体の運営について報告や意見交換を行っている。法人代表者は、時々ホームを抜き打ち的に訪問し気づいたことを現場へフライングバックしている。管理者は「自らの他のスタッフへこうしたいといった話をしていない」、職員は「管理者のひらめきや気づきを発信してほしい」と自己評価している。職員はもとと管理者や他の職員と話し合っ「こうしていきたい」という前向きな思いを持っている。管理者は「この思いを大切にしていきたい」といい。個人情報保護の規定を法人で定め周知徹底している。介護計画を見直す3か月に1回の「サードピア担当者会議」に家族の方も参加をお願いし、意見や希望を聞いている。町内のゴミ拾い、お祭り、盆踊り、花火大会、消火訓練に参加をしている。立地環境もあり、日常的な地域との交流が難しい現状ではあるが、3年目を迎え、地区の住民として少しずつ理解し受け入れられていく環境が整ってきている。</p>			

「評価(全体を通して)」

法人が、民間の会社が海の家として使っていた3階建ての保養所を買い取ったものである。当初は、通所サービスを地域で展開しようと考えていたが、地域に通所のニーズが少ないことから、グループホームでの地域サービス提供を開始した。3階建ての宿泊施設であり、娯楽室や大浴場も備えられていることから、将来は通所や短期も行える「小規模多機能サービス」を視野には入れている。開設から3年目を迎え、職員も入居者も生活の流れになれ落ち着きが出てきている。海の保養所という立地から、夏の時期は海水浴客で賑わった環境にある。ホームは、2階を居住区として使用しているが、他の階はあまり活用をしていない現状でもある。入居者の暮らしている立ち着きが第一であるが、置かれた建物、設備を地域の有効な社会資源として、人が集まり、人の賑わいを取り戻す拠点として活用できないか運営推進会議でも話し合っ「いっしょに」。運営推進会議は、地元市町村の意向もあり年2回の開催でよいこととなった。地域密着型なので、地元市町村の判断で開催回数は弾力を持って行われることでよいが、国の通知は、2ヶ月に1回程度となっている。毎回、区長や福祉課の担当者が出席することも大変なので、地域包括支援センターなども含め交替で出席するなど、もう少し開催回数が増やせないか検討してほしい。